

中部方面混成団

かけはし



MACB
QRコード
編集・発刊

中部方面混成団
本部広報室

TEL 077-523-0034

団持続走競技会

隊員が長池演習場を駆ける

混成団（団長 深田 尚則一陸佐）は、平成二十八年二月七日（日）長池演習場（京都府）において団持続走競技会を実施した。

本競技会は、戦闘員として必要な持続走能力の向上を図るとともに、部隊の団結強化及び士気の高揚を図る目的で行った。

競技会は、軽武装（戦闘服装に銃を携行）で行われ、断郊走の部（連隊、四曹教）及び個人走の部（大隊）によりそれぞれ競い合った。

選手たちは、演習場内の高低差の厳しい四キロコースを部隊、個人の名誉のため日頃の練成の成果を発揮した。また、混成団友の会から田中会長と役員の方が応援に駆けつけ、熱のこもった激励により選手の力走を後押しした。

本競技会の結果については、下記のとおり。
※断郊走とは、グループ走のこと。

成績

● 断郊走の部

優勝 四十七普通科連隊

● 個人走の部

優勝 一一〇教育大隊

● 成績優秀分隊

第一位 四十七普通科連隊一分隊

第二位 四十九普通科連隊一分隊

第三位 四十七普通科連隊二分隊

● 個人表彰

第一位 一一〇九教育大隊 茂山 2 曹

第二位 一一〇九教育大隊 尾崎 2 曹

第三位 一一〇九教育大隊 久保 3 曹

● 女性自衛官の部

第一〇九教育大隊 三嶋 2 曹



ちよつと一服

平成二十八年年度が始まりました。小職にとりましては、二年目となる年度です。平成二十七年年度は、混成団長として全てが最初であり、試行錯誤の中、先輩や同僚そして部下さらに関係協力団体の方々等、多くの人達に支えられ、多少の紆余曲折はあったものの、何とか乗り越えることができました。この場を借りまして、お礼申し上げます。引続き、新年度におきましても、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。それでは、ここでちよつと一服したいと思えます。以前「聞く力」という本が話題になりました。

耳から「きく」という漢字としては、「聞く」と「聴く」そして「訊く」があります。

「聞く」の意味は「隔たりをとおして耳にする人の話や、よそからの音をきく」であり、「聴く」は「きく、まともに耳を向けてきく、耳を澄ましてきく」、訊くは「どう、たずねる、質問をする」とあり、それぞれの漢字により、意味そして使う場が異なります。

最近、歳を重ねるに依り思うことは、人の話をしっかりと「きく」ことが大事だと痛感します。今までは、人の話もある程度聞いて、勝手に自分で思い込み、そして行動するパターンが多く、それでもそれ程大きくはずすことなく、結果として何とかなっていました。

しかし、老化現象もあるのかもしれないが、そのあたりの感も鈍くなってきたのか、それではうまくいかなることが多くなってきたように感じます。そうした中で改めて、前述の「きく」という漢字の中の「聴く」という漢字に注目してみますと、この「聴く」という漢字は、「耳」、「十」、「目」、「心」という部分に分解できます。この4つの部分を見た時に、まさにこれから自分に必要な事は、ただ単に「音としてきく」ことではなく、対峙する事象に対して「耳」に「目」と「心」をプラス（十）して、きくこと、理解することが大事だということとをこの「聴く」という漢字から学べるように思います。「聴く力」すなわち「耳を澄まし」「目を凝らし」「心を開いて」、これからも、色々なことを聴いていきたいと思う今日この頃です。

中部方面混成団長 一等陸佐 深田 尚則

中混団初！総合戦闘射撃実施



訓示を述べる団長



一発必中を狙う狙撃隊員



87式対戦車誘導弾



01式軽対戦車誘導弾



120mm迫撃砲

混成団は、平成二十八年一月五日（火）から九日（土）までの間、あいは野演習場において、十四特科隊・第三戦車大隊の支援を受けて混成団初となる総合戦闘射撃を実施した。

本訓練には、第四十九普通科連隊の即応予備自衛官も参加し、諸職種が総合一体化した総合戦闘射撃訓練として、その練度向上を図った。

本訓練の実施にあたり、統裁官（混成団長）は、「全火器・全部隊の総合一体化」「安全管理の徹底」を要望し、「指揮官の確実な命令・号令による射撃指揮、各射手の基礎動作を確行し、安全・確実に本訓練の目的を達成せよ」と参加部隊に対し要望した。

総合戦闘射撃は本年度最も重視する団統一訓練であるとともに、平成二十八年の団訓練初めとなった。

【総合戦闘射撃とは】
普通科・特科・戦車部隊などの諸職種部隊が、総合された火力発揮能力の向上を図るため実施する射撃訓練

「教育119」ネットワーク

今年度、方面管内各部隊で行う基本教育を更に良いものにするを目的として、教育専任部隊主幹により教育技能等の情報共有窓口を構成し、基本教育の面から混成団長及び各級指揮官を補佐する態勢をとらせていただきます。

方面隊サージャントパートナーシップ（准尉陸曹の相互連携）の一翼として方面隊最先任上級曹長を援護し、隊員育成の一助になれば幸いです。

御理解御協力の程、宜しくお願致します。

中部方面混成団最先任上級曹長
准陸尉 大内 耕二



儀仗を受ける総監



屋上での地点指示

混成団及び大津駐屯地は、二月二十三日（火）中部方面総監 鈴木陸将の初度視察を受けた。

総監は、状況報告、隊内巡視により混成団及び大津駐屯地の状況を視察された。

訓示では、総監統率方針として「任務必遂」を掲げ、「誇りと謙虚さ」「厳しさと思いやり」「地域と共に」の三点を要望されるとともに、実戦的実地的な教育に留意し、基本基礎を確行できる隊員の育成に努めてもらいたいと述べられた。

中部方面総監初度視察

混成団持続走競技会

勝利への執念で 栄冠に輝く



連隊（連隊長 齋藤一陸佐）は、平成二十八年二月七日、長池演習場において中部方面混成団武装走競技会に参加し断郊走の部で見事「優勝」した。

本競技会には十二個分隊（連隊長指定選手十五名、女性自衛官一名を含む抽選選手七十七名）がエントリーし、インフルエンザで出走できなかった隊員のハンデをも克服すべく高低差の大きいコースに挑んだ。

競技では分隊長を核心に原村演習場での試走結果や当日の体調などをふまえての銃や装具の受け渡し、声かけなどをしながら分隊ごとに示された目標タイムを刻み力走した。

ゴール後に倒れ込む隊員が何人もいたことは、「一秒でもタイムを短縮する。一息いの表れ、競技会後の祝勝会ではともに走り終えて仲間達と練成の労をたたえ合った。」

連隊は、三月三、四日、中国・四国地区のほか兵庫・滋賀の各地方協力本部及び中部方面混成団、第三〇四・三〇五施設隊の担当者二十三名の参加を得て、平成二十七年即応予備自衛官等担当者調整会議を海田市駐屯地において実施した。会議では、当初、即自雇用企業との連携、即自顕彰、即自募集協力などに関する平成二十七年年度施策実績、平成二十八年計画等について意見交換を行った。

その後、地本別に企業主等研修、企業訪問などの予定について調整し、平成二十八年即自業務推進の資とした。

地本担当者を交えて！ 即自担当者等調整会議



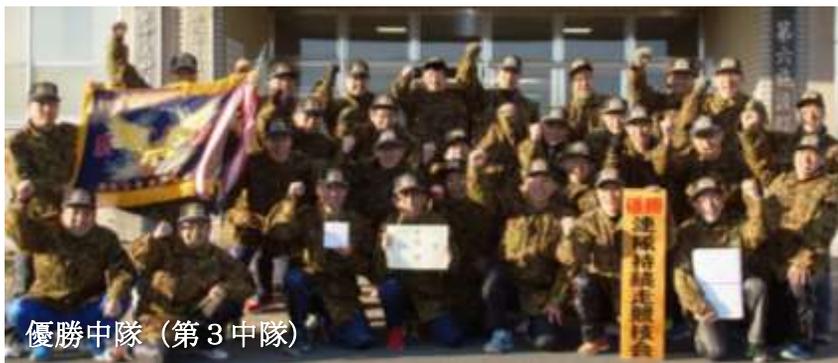
**創隊の偉業を振り返り、
新たな一歩を誓う**

連隊は、平成二十八年三月四日、創立十七周年記念行事を実施した。当日は、岡山県精神科医療センター精神科医師 小南博資氏（即応予備二等陸尉）による「条件反射制御法による自己変革」と題した記念講演、引き続き、感謝状贈呈、前 卓志 百万一心の会（連隊協力会）会長、河端博四七〇B会会長等を迎えての式典、祝賀会食と進み創隊また連隊の充実・発展に御尽力された後援会、OB会をはじめとする諸団体、地方協力本部、雇用企業、各駐屯地そして使命感あふれる即応予備自衛官などに感謝するとともに、真に戦える組織への脱皮を誓った。



記念講演をする小南博資氏

平成27年度連隊持続走競技会



優勝中隊（第3中隊）

競技間、寒波襲来の影響もあり強風に煽られる等の厳しいコンディションとなったが、各隊員はこれまでに積み重ねてきた錬磨の成果を最大限に發揮、渾身の力を振り絞り最終走者へと襷を繋いだ。デッドヒートが繰り返された中、競技を制したのは第三中隊。昨年度優勝中隊（第四中隊）の追従を振り切り悲願の初優勝となった。

閉会式では、部隊表彰の他、個人としてMVPに第三中隊の栗田三曹が輝いたほか、六名の隊員に連隊長から敢闘賞が贈られた。

競技開始に先立ち統裁官（連隊長）は、「持久力はあらゆる戦闘戦技において基盤となるものであり、強靱な戦闘を行うためには持久力が必要不可欠である。」と訓示し、「戦闘員として個々の力を最大限に發揮せよ」「安全管理に万全を期せよ」の二点を要望、各中隊一丸となって目的を達成することを期待した。

連隊（連隊長 茅野一陸佐）は、平成二十八年二月二十九日及び三月一日、豊川市陸上競技場において連隊持続走競技会を実施した。

本競技会は、各人の持続走能力の向上を図るとともに、部隊の団結強化及び隊員の士気高揚を図ることを目的として、連隊ナンバー「49」に因んだ四十九キロの駅伝方式で実施。陸上競技場一周四百メートルのトラックを百二十二、五周するコースで行い、三十三個チーム（一チーム四名十三名）が参加、中隊対抗方式（参加チームの平均タイム）で二百四十五名の隊員が競技に臨んだ。

第四十九普通科連隊 第三中隊、悲願の初優勝



優勝中隊長の胴上げ



33個チームが一斉にスタート



駅伝競技



襷リレー



ゴール付近

中部方面隊優秀隊員表彰

第四中隊の阿佐泰史即応予備陸曹長は、平成二十二年即応予備自衛官制度発足当初から、十六年にわたり三十日出頭を達成するとともに技能の錬磨に励み優秀な訓練成果を収めたほか、他の即応予備自衛官に対する指導及び感化善導に努める等即応予備自衛官制度の定着化並びに部隊の精強化に寄与したとして二月二十七日、中部方面総監部（伊丹駐屯地）において実施された平成二十七年中部方面隊優秀隊員顕彰状授与式において、中部方面総監から表彰された。



一面雪景色のなかでの射撃

この冬一番の寒波襲来の影

は、第十一

即応予備自衛

官招集訓練で

各駐屯地に出

頭した各中隊

狙撃班の即応

予備自衛官を

あいつば野演習

場に集結させ

て行った。

第三次連隊射撃野営

連隊は、平成二十八年一月二十三日から二十七日までの間、あいつば野演習場において第三次連隊射撃野営訓練を実施した。

訓練は、対人狙撃銃及び十二、七ミリ重機関銃の射撃練度向上を目的として行い、対人狙撃銃射撃（第二中隊担任）において

響もあり、25日に実施した狙撃銃射撃では、猛吹雪で標的が確認出来ず苦戦する場面もあったが、隊員たちは凍える寒さをもともせず冷静沈着に標的照準し、練度判定に臨んだ。翌二十日に実施した重機関銃射撃（重迫撃砲中隊担任）では、徹甲弾を使用した目標変換射撃など、より実践的な射撃を追求、こちらも一面雪景色の中での射撃となったが、整斉と射撃を実施し、所望の成果を収めた。



1.2: 7ミリ重機関銃射撃



狙撃銃射撃



優秀隊員顕彰状授与式

記念撮影（左から鈴木総監、阿佐曹長、阿佐曹長夫人、鈴木総監夫人）
[写真提供：中部方面総監部広報室]

27年度も最後の卒業式

第四陸曹教育隊



184期上級陸曹課程



8期最先任上級曹長集合教育



128期陸曹候補生課程

第四陸曹教育隊（隊長 中山一陸佐）では、三月十六日に陸曹上級課程、二十五日に陸曹候補生課程の卒業式が行なわれた。昨年度隊は、陸曹候補生課程六個期、初級陸曹特技課程二個期、陸曹上級課程三個期、方面陸曹基礎英語課程三個期、生徒陸曹候補生課程一個期、最先任上級曹長集合教育一個期、中級陸曹集合教育四個期を担当し、方面隊から集合した各期の学生達は、無事教育を終了し、大きく成長して各部隊に帰って行った。

隊は引き続き、「俺を見よ、俺に続け」の指標のもと学生達の指導はもとより、基幹隊員達についても自ら鍛える意識を新たに二十八年度の隊務を開始した。

隊業務・装備改善



審査会場

隊は、二月十七日（水）平成二十七年隊業務改善及び装備改善審査会を実施した。審査会には合計十一件が展示され、各々が熱の入った説明を実施し、そのうち十件が隊として採用され、三月十五日に実施された団装備・業務改善に上申された。

第一〇九教育大隊



第九期一般陸曹候補生
平成二十八年度自衛官候補生 着隊

大隊（大隊長 佐伯二陸佐）は、大津駐屯地にて第九期一般陸曹候補生三一五名、自衛官候補生（女子）一三六名、計四五一名の新入隊員を受け入れ、六月二十六日までの間、教育を実施します。大隊の気持ちをひとつにし、一丸となって大隊長要望事項である「啐啄」「活模範たれ」を具現すべく教育に取り組んでいく所存です。
春の光を身に浴びて、桜の開花の準備も着々と進み、生命の躍動感を感じることの時期に、今年も大勢の若者が大津駐屯地の門をたたき、賑やかな季節がやって来ました。



緊張の面持ちで被服適合にのぞむ新入隊員



期待と不安を胸に続々と着隊する新入隊員

第一一〇教育大隊



平成二十八年度
一般陸曹候補生
自衛官候補生 着隊

第一一〇教育大隊（大隊長 増田二陸佐）は、善通寺駐屯地において、三月二十六日から三十日の間に第九期一般陸曹候補生二百五名を、また、四月一日に自衛官候補生百二十八名を異状なく受け入れた。
新隊員たちは今までと大きく異なる環境の中、緊張した面持ちでそれぞれの中隊へと向かい、これから指導を受ける区隊長・班長、苦楽を共に過ごす同期達と初対面した。
大隊は、新隊員を一人前の自衛官に成長させるべく、基幹隊員及び支援教官・助教が一丸となり情熱と愛情をもって、教育に邁進していく。



希望と不安を胸に着隊（一般曹候補生）



悪戦苦闘の縫い物（一般曹候補生）



緊張の面持ちで受付（自衛官候補生）